

日本記者クラブ会報

第398号
2003年
(平成15年)
4月10日発行

〒100-0001
東京都千代田区内幸町二ノ二ノ一
日本プレスセンタービル
◎社団法人 日本記者クラブ

新理事長に北村正任氏

新年度予算決まる

日本記者クラブの第十三代理事長に北村正任氏(毎日新聞社常務主筆)が就任しました。日本経済新聞社の社長に就任された杉田亮毅氏の理事長辞任に伴い、三月十四日の理事会で、北村氏が全会一致で選出されたものです。

北村新理事長は一九四一年生まれ。六五年に毎日新聞入社、外信



北村正任 新理事長

部長、論説委員長、東京本社編集局長などを経て二〇〇〇年六月から現職。〇一年三月以来、クラブの副理事長を務めてきました。一方、退任した杉田氏は九四年五月理事、総務委員長、副理事長を経て、九九年五月から理事長。九九年間にわたって、クラブの発展に大きな業績を残されました。なかでも、天皇・皇后両陛下をお迎えした、クラブ創立三十周年記念パーティー(九九年十一月一日)を、準備段階から先頭に立って尽力され、理事長として成功させました。ご懇談は、他に例を見ない約一時間半。皇室と国民の永い歩みの中で、これまで経験したこと

のない歴史の新しい一ページが開いたのですから、クラブの名声が一段と高まったのも当然です。また、クラブ財政の強化に力を注ぎ、特に企業の法人賛助会員の新規入会に多大の功績を残されました。厚くお礼を申しあげます。



◇ 〇三年度予算が決まりました。総額四億五千九百万円、前年度比三百万円の減少となりました。

特徴は、収入の基本である会費収入の落ち込みです。プレス会員の減少が一番大きいのですが、これまで順調に伸びてきた個人D会員や企業の法人賛助会員まで、全般にわたって減少したのです。

プレス会員の減少は、ここ数年の傾向です。しかし、これを施設やレストランなどの利用による事業収入の増大で埋め合わせ、健全財政を維持してきたのです。幸い、デフレ不況下ながら今回も、事業

収入は前年実績を上回ることができました。ただ、会費収入の落ち込みが大きかった分だけ、十分にその穴を埋めるまではいきませんでしたが、まずはトントンのところ、と言ってよいかと思います。本来なら、〇三年度は四年目ごとの会費改定の年にあたります。しかし、当分の間、改定しないことが決まっています。さらに会員の入会促進と事業収入増を図り、効率的な運営を目指す所存です。

テレビマンユニオン(法人)入会

テレビプロダクションの草分け的な存在であるテレビマンユニオンが法人会員で入会しました。同社は新聞協会、民放連の加盟社でないため、入会申請を総会にはかり、認められました。また、キヤノンとアットネットホームの二社も法人賛助会員として仲間入りしました。会員の減少が続く中で、三社の入会は誠にありがたく、お骨折り頂いた杉田前理事長に感謝いたします。これで、法人会員は百四十九社、法人賛助会員は八十社です。(専務理事 那部吉正)

新旧理事長あいさつ

クラブの運営について「新参者」に近い私に次期理事長の

声が掛かったのには戸惑いました。実は毎日新聞社は、クラブ創設以来の主要メンバーでありながら、過去十五期にわたって一度も理事長を出していません。各社が力と責任を寄せ合って運営するうえで、これは好ましいこととは言

でも役立ちたい、という気持ちだけは一貫して持ってきたつもりです。任務を何とか全うできま

えません。

「だから今回は——」という背景もあり、若輩の身を顧みず、お引き受けします。誠意を持って職務にあたる覚悟です。

北村 正 任

（毎日新聞社
常務取締役主筆）

杉田前理
理事のもとで、クラブは着実に前進しました。国賓、公賓の会見をはじめとする情報発信の機能が高まりましたし、アジア経済視察団の派遣や記者研修など、新しい要

請に沿った活動も成果を上げています。

この間、天皇・皇后両陛下をお迎えできました。また、法人賛助会員を広く迎えるに

力、クラブ財政から

力量豊かな前任者の後に行くのは、正直なところしんどいなあ、という思いもなくはありません。ここはなんとか、皆さんのご協力を得て頑張らなくては

と思っています。

情報技術革命の中で、マスコミ界は大波に洗われています。各社間の競争も激しさを増しています。けれども、私たち個々の記者共通の価値であるジャーナリズム精神は、廢れるどころか、ますます存在意義を大きくしています。日本記者クラブこそが、ジャーナリズムの総本山であるように、全会員の力を合わせて、一つ一つの活動を積み重ねたいと願っています。

四年近い理事長の任を終え、北村新理事長にバトンタッチすることができました。在任中、大した

したのも、全役員、委員、事務局の皆さんのご協力と、多くの会員の皆さんのご支援のおかげであります。本当にありがとうございます。

杉田 亮 毅

（日本経済新聞社
代表取締役社長）

仕事はできませんでしたが、日本記者クラブの存在価値を決める情報発信基地としての地位向上に少しでも役立ちたい、という気持ちだけは一貫して持ってきたつもりです。任務を何とか全うできま

あまりの混雑の中にお迎えしたことにハラハラする場面もありましたが、後日、宮内庁関係者から、陛下が「大変よかった」と感想をもらされたこと、ホッとしました。

海外からの主要人物の当クラブでの記者会見も定着し、情報発信基地としての地位は確実に上がっていると思います。しかし、理事長の座を去るに当たって気がかりなのは、私どもの新聞を含め、会員各社の紙面・映像での利用があまりにも少ないことです。このままでは将来の当クラブの存立をも揺るがすことにもなりかねませんので、当クラブ幹部と各社編集・報道幹部の皆さんの連係プレーを切にお願いする次第です。

佐藤 行雄 日本国際問題研究所理事長



3.7 (金) 研究会
「イラク問題」①
司会 春名幹男委員
出席 156人

▼イラクの不順守が問題の本質
この会報がメンバーの手に渡るころには米国のイラク攻撃が開始されているだろう。佐藤氏が「イラクと国際秩序」と題して講演したのは三月七日。ブッシュ米大統領が「安全保障で米国はだれの了承も必要としない」と国連決議なしのイラク攻撃の姿勢をむき出しにした記者会見から六時間後。ブリクス国連査察団委員長が安保理に「数カ月の査察延長」を訴える口頭報告を行った九時間前、という難しい状況の中での発言だけに、いつもは歯切れよく外交課題を切りさばく佐藤氏も、「安保理の議論の方向は率直に言って分からない。(東京で論議を予想するのは) 気象衛星なしで天気を予報

するようなもの」と口ごもりがちだったのは、しかたがなかったか。それでも佐藤氏は「イラク対応は手続きに焦点が当たりすぎていく」と切り出し、イラクによるクウェート侵攻の際の安保理決議、停戦条件の大量破壊兵器の廃棄の約束が実現されていないこと、国連査察に十二年間協力してこなかったことが問題の「本質」と強調。今回の決議1441にいたる二十九本の対イラク決議のうち石油輸出に絡むものを除く七本は査察拒否などに対する警告決議だったとして、「イラクの不順守に国際社会は非常な不信を持っている。これも事実だ」と指摘した。ブッシュ大統領の最後通告は、まさに佐藤氏の挙げた「本質」に絡む決議に基づいて行われたものであり、見通しは正しかったといえそうだが。また、安保理常任理事国五カ国の妥協が困難になったことについては、ブッシュ政権の強引な手法に対する警戒感と自己主張を強め始めたヨーロッパの動きを大きな

理由に挙げ「自分の価値観を広めていこうという点では、もう一つ、米国的な極が生まれつつある」と述べた。佐藤氏は「国連はこれまでも未完成だった。まず戦勝五カ国の拒否権を改革していくべきだ」

とも訴え、○六年の日本の国連加盟五十周年に向けて、憲章から「敵国条項」を削除することを日本外交の課題とするよう求めた。
共同通信編集局長次長
龍野 建一

十市 勉 日本エネルギー経済研究所常務理事



3.10 (月) 研究会
「イラク問題」②
司会 W・ワーグナー委員
出席 182人

▼石油から見たイラク戦争

米英、スペインが国連安保理で、イラクに対しての「最後通告」を十七日に設定した直後に開かれた十市勉氏の「イラク勉強会」は盛況だった。同氏は「極めて難しいタイミングでお招きいただいた」と、苦笑いしながらも、長年におたって「石油などエネルギーの観点で世界をみつめてきた」同氏ならではの豊富な知識に裏打ちされた「イラク危機と石油」の現状分析と見通しを開陳した。
同氏はまず、間近に迫った対イ

ラク戦争について、「戦争は石油のためか」と問い、「石油が米国の大義名分であり、重要な開戦理由の一つ」だった九一年の湾岸戦争との比較を行った。同氏によれば、今回の対イラク戦争の目的は①中東の「民主化」と体制変更②アラブの石油パワーの弱体化によるテロ資金源の遮断―で、それによって米国の威信回復とブッシュ再選を目指すことにある。「中東の戦略拠点イラクに米国の軍事的、政治的プレゼンスを確保する目的がある」という。つまり、「石油は重要だが、軍事力行使の動機ではない」ということになる。
これは「フセイン体制打倒で、中東民主化、ひいてはイスラエルの安保にも寄与する」との米国のタカ派「ネオ・コンサーバティブ

(ネオコン)の考えが色濃い。だが、力で中東地域を変革しようとするネオコンは「ある程度の混乱はいたしかたない」と考えており、リスクが大きいという。

そこで、ネオコンのもくろみとは裏腹に「中東全体が変わり、不

晝馬 輝夫 浜松ホトニクス社長



安定化するのでは」と同氏は警告。中東民主化、特にサウジやイランの改革に手を貸す場合、「サウジ流、イラン流の改革が重要」と説いた。

時事通信外国経済部長 沢井 渉

子放射線断層撮影装置 (PET)

や、半導体レーザーで植物プランクトンを増殖させる工場など、光に関する同社の研究を次々に紹介した。ここでも「PETで政治家全員の頭の中を調べてみたい」と毒舌を忘れないのはさすがだ。

「知識には一定の形に書きくせざる『形式知』と、他人に説明できない『暗黙知』がある。トヨタがいい車を作るのは、工場に暗黙知を持った名人がたくさんいるからだ」と、経験の技がモノ作りに果たす役割を強調。暗黙知を持つ人がもつとよい待遇を受けるべきだと訴えた。

日本産業の再生について「欧米のまねではもうからない時代。独自技術は自分で値段を決められ、



3.13 (木) 研究会
「北朝鮮」⑤
司会 渡辺興二郎 委員
出席 247人

もうけの種になる」とする。とにかく独自性がポイントのようだ。一方で「補助金の申請で、世界でだれもやっていない技術だと説明したら、ベテンのように見られた」とし、独創性を評価できない日本の問題点の根深さも指摘した。

田中 均 外務審議官

▼外交の大義を強調

日朝首脳会談の道筋をつけた当局者をゲストに迎え、会場は多数の出席者で埋まった。

「外交には大義が必要だ」の持論通り、揮毫にも「大義」と書いた。

北朝鮮外交での大義とは、朝鮮半島に「平和な体制をつくること」と語った。それは、朝鮮半島とかかわるなかで確信となったと

話は尽きず時間切れ。技術にかける情熱が伝わり、元気の出る一時間だった。

東京新聞科学部

永井 理

3・12 (水) 昼食会 司会 宇治敏彦理事 内山敏夫委員 出席 61人

いう。

北東アジア課長だった八八年、大韓航空機爆破事件の実行犯、金賢姫元死刑囚と面会し「日本が大きな危険にさらされている」と実感した。九三、九四年の朝鮮半島核危機の時には危機管理の担当者として「実際に戦争が起きてても日本には備えがない」と切実な思いをした。北米局審議官として策定にあたった日米新ガイドラインも「北朝鮮への備えと扱い方が主要課題だった」と振り返った。

新ガイドラインと周辺事態法により「備えが一定の方向で整備された」と思っていたが、北朝鮮の不審船やミサイルなどの問題は残ったままだった。だからこそ「問

題を包括的に解決し、関係を正常化していくなかで、北朝鮮が変化することを懲通（しょうよう）していくことが大切だと思つた」と、日朝交渉の意義を語つた。

しかし、首脳会談後の日朝関係はこう着状態が続き、核やミサイルをめぐる情勢は切迫している。

ジョン・スミス GM会長



▼素朴な人柄で一時代を築く

「トヨタ自動車と米国での合併生産をまとめたことが最大の思い出」。五月にGM会長を退任するジョン・スミス氏は、約四十年のGMでの人生を振り返つた。

「アジア市場の成長ぶりには驚くものがある」。スミス会長の功績の一つは、アジアでのパートナーづくりだ。一九七一年のいすゞ自動車への資本参加に始ま

「テポドン発射や核再処理施設の再稼働などエスカレーションすれば、相当深刻になる」と述べる一方で、「核計画をくい止めるのは（今からでも）遅くない」と話した。秘策はあるのだろうか。

朝日新聞論説委員

藤原 秀人

り、八一年にはスズキ、九九年には富士重工業との提携をまとめた。八三年に始めたトヨタとの米カリフォルニア州の乗用車合弁生産は年四十万台の規模に達し、両社にとって重要な拠点になった。

日本以外では韓国の大宇自動車、中国三大自動車メーカーの上海汽車もGMグループとして囲い込んだ。「いずれもGMの将来にわたる財産」と成果を誇る。

こうしたGMの提携戦略には、スミス会長の「人柄」が貢献しているのは、関係者のだれもが認めるところだ。提携関係にある日本の自動車メーカーのトップは「会えば何か心配事はないかと向こうから笑顔で話しかけてくる。あの

素朴な人物が世界最大の自動車メーカーのトップかと思うと驚きだ」と話す。

スミス会長の退任でGMも一つの転換期を迎えるのは確かだ。GMがパートナーの経営の自主性を重んじるあまり、提携効果が必ずしも期待通りに出ているわけではない。これからGMのハンドルは、スミス会長が手塩にかけて育てた

加藤 隆俊 元WHO専門委員



3.20 (木) 研究会
「HIV/エイズ」①
司会 宮田一雄 委員
出席 33人

▼保健援助の経済効果は六倍

地球規模のエイズ対策には、途上国がエイズと闘うことができるよう保健分野への援助が必要になる。理念としてそのことは理解できても、現実に巨額の援助資金をだれが負担するのかという議論になると風向きが変わってくる。

世界保健機関（WHO）の「マクロ経済と保健委員会」が二〇〇

リチャード・ウゴナー社長が握る。一時代を築いたトップの退任がGMの世界戦略にどう影響を与えていくか、興味深い点だ。

日本経済新聞産業部

下田英一郎

3・17(月) 記者会見 司会 小池洋次委員 通訳 長井鞠子 澄田美都子 出席 106人

一年十二月にまとめた報告書は、途上国への保健援助を投資効果の面から分析していた。援助疲れが指摘される世界の現状に風穴を開ける狙いもあったようだ。

報告書によると、途上国の保健対策に必要な資金は二〇一五年時点で年間六百六十億ドル。その結果、毎年八百万人が死を免れることで失われずにすむ労働力と経済成長率の上昇によって年間三千六百億ドル、つまり投資の六倍の経済効果が期待できるといふ。マクロ経済と保健委員会は、世界の著名な保健、開発、経済分野の専門家十八人で構成され、大蔵

省元財務官である加藤隆俊氏は日本からの唯一の委員だった。保健援助の必要性をめぐる議論から、途上国への治療薬の提供と薬の知的所有権に関する論争まで、複雑かつ広範な話題を素人にも分かりやすく整理して話していただけたのは、委員会での議論の積み重ねがあったからだろう。

十八人の委員からは、リチャード・ワイチャム氏が世界エイズ・

ド・ワイチャム氏が世界エイズ・結核・マラリア対策基金の事務局長、スパチャイ氏が世界貿易機関(WTO)の事務局長に就任。今年十一月に神戸で開かれる第七回アジア・太平洋地域エイズ国際会議の組織委顧問となった加藤氏にもさらに活躍が期待される。

産経新聞編集局次長 宮田 一雄

レスター・ブラウン 地球政策研究所所長



3.20 (木) 記者会見
司会 迫田 枝廣 63人
出席

▼水は国際通貨です

レスター・ブラウン地球政策研究所長の「水」講義は面白かった。同氏は資源、環境の視点から国際政治を観察・予測するユニークな学者である。

いま、食糧バブル時代を迎えている、とブラウン氏は指摘する。それは中国、インドなどで、自然

循環で供給される限度を超える水量を使って食糧を生産しているからだ。行き着く先は、食糧生産の急減である。中国華北平原のトウモロコシ栽培では、滞水層からのくみ上げが原因で、地下水位が毎年一・五メートルずつ下がり、最近では三メートル/年と加速されている。

北京、天津周辺では都市・工業用水が優先され、農業は不能になりつつある。農業用水と工業・都市用水の争いでは農業が負ける。

一千トンの水を使って一トンの穀物が収穫されるが、その稼ぎは二百ドル。それを工業用水に使え

ば一万四千ドルになるからだ。農業は衰退し、穀物輸入に頼らざるをえない。

中国では一九九九年の穀物収穫は三・九億トンだった。それがいま三・四億トン。一、二年は備蓄取り崩しでしのぐとしても、その後は世界市場、とくに米国に頼るほかない。穀物相場は高騰し、米中穀物戦争を引き起こしかねない。

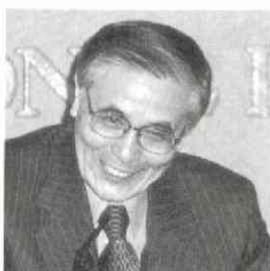
寺田 輝介 前駐韓国大使

▼太陽政策の光と影

北朝鮮情勢を占う上で欠かせないのが韓国の動向である。二〇〇〇年六月の史上初の南北首脳会談は金大中大統領が推し進めた「太陽政策」の最大の成果ではあるが、この政策には光と影がある。寺田前大使は「ソウルから見た北朝鮮

問題」として、いくつかの興味深いエピソードを交えながら、その功罪を中心に北朝鮮、そして朝鮮半島情勢を透かして見せた。

大使が挙げた太陽政策のプラス面は①朝鮮半島の平和維持②離散家族再会実現(六回)③南北経済関係進展―で、マイナス面として①国民の広範な支持がなかった②透明性に欠けた③相互性がなかった―ことを挙げた。盧武鉉政権の頭痛のタネである南北首脳会談直前の現代グループによる秘密送金問題は、まさにこの負の側面から生じたといえる。



3.28 (金) 研究会
「北朝鮮」⑥
司会 春名幹男 委員
出席 117人

澤 英武

「南北対話は評価されるが、南北対話が終わったなら、いつのまにか米朝が動いていた」。〇〇年秋の趙明福・国防委員会第一副委員長との訪米と、オルブライト国防長官の訪朝に代表されるクリントン政権末期の米朝間のあわただしい動きを大使はこう評した。

では、米朝関係が緊張している今はどうか。「(北朝鮮は)米朝トラックが悪くなると、南北トラックを再活性化させていく」。金正日総書記訪韓の可能性は否定しながら、「何の根拠もないが」と前置きしつつ盧武鉉大統領が訪朝する可能性に言及した。

北朝鮮の「脅威」を列挙したが、北朝鮮がイラク戦争と連動して危機を高めるといふ見方は取らなかつた。イラク戦の行方を見守りながら「その終わり方を見て戦術的転換をするか決めるだろう」とみただのは「冷戦後の北朝鮮は、その時々国際関係をみながら方向転換をしてきた」ことを踏まえた現実的な判断なのだろう。

共同通信外信部次長

阪堂 博之

『新日本語の現場』

橋本 五郎 監修

(読売新聞編集委員) 読売新聞
新日本語企画班

日本語の現状を徹底分



析しようという読売新聞夕刊の長期連載の第一弾。「若者言葉」の代表格である「チョー(超)」や「うざい」「あたし的」などがどうして広まったのか。背後にはどんな若者の心理や社会的背景があるのか。さらに「カタカナ語」の氾濫の現実を政治や文学などさまざまな角度から取り上げ、多用の理由について時代的背景も含めて分析している。これまでに三千通を超える手紙やファクス、メールを読者の皆さんからいただき、日本語に対する関心と憂慮の深さを実感している。(中公新書ラクレ 七四〇円)

『メディアの試練 21世紀とテロと報道責任』

川口 信行(朝日新聞OB)

米「九・一一」テロ事件の衝撃、

その一年後の金正日「拉致」告白ショック、そしてフセイン政権打倒をめぐる攻防。いま世界は羅針盤を失ったように揺れている。メディアの役割が最も問われる局面であるが、世紀末から二十一世紀にかけての十年、メディア批判を呼んだ事件は数多くある。この間、報道被害、メディア規制が声高に叫ばれた。むろんメディアが果たした功績も見逃せない。これらの「報道」の一つ一つを検証し、メディアのあるべき姿を探ってみた。(日本図書センター 四六〇〇円)

『大正天皇の「文学」』

田所 泉(日本新聞協会OB)

愚帝かそれとも賢帝か、このところ一部で議論になり始めた大正天皇の実像を、漢詩と和歌を通じて読み解こうと試みました。ついでに、同じ方法で、孝明天皇と、昭憲皇太后から美智子皇后まで四代の皇后の作品か

ら、内面の世界をのぞいてみました。新聞協会事務局を退いて八年、昭和・明治の両天皇の研究につづく三冊目の書き下ろしで、近代天皇制の「文学方面」の分析という自身への宿題を、やっとならだけすませた心境です。(風濤社 二、〇〇〇円)

『味わいシネマガイド』

原島 一男 (NHK・OB)

あなたは、英会話について、こんな悩みをお持ちではありませんか? 単語はわかっていても、きちんとした文章が作れない。どんな構文を使うか、頭に浮かんでこない。この本はこうした悩みを持つ人びとに贈ります。日常生活で使う二百以上の表現を映画のシーンから集めてみました。日本人は英語の単語や表現は、ある程度学習していますから、実際の会話の中で、あなたの英語の潜在能力を引き出すだけでいいのです。

(学研 一、三〇〇円)

書いた話 書かなかった話

小野田さん救出作戦

一番乗りを目指せ

西島 雄造

寒が明けてまもない二月十一日の朝刊で、三十年前の駐フィリピン大使・占部敏男氏の計報を知った。忘れていたルバング島取材の日々がよみがえった。

しまいこんでいたJALと鶴マークの赤いバッグを引っ張りだしてみた。すっかり変色した発表資料や地図、厚生省が運び込んだ設備・備品一式、薬品等の一覧表、捜索隊配置要図、警視庁が作成した呼びかけ説得の方法、記者会見のノート、送稿済の原稿、帰国特別機の午さん献立などが出てきた。鮮やかな記憶のままのものもあれば、記憶の曖昧さを思わずにいら

れないメモも少なくなかった。

最初のフィリピン・ルバング行は、ちよつと楽しい体験だった。

昭和四十八年二月から展開された厚生省援護局の「小野田元少尉の救出に関する第三次捜索計画」に同行しての一カ月。小野田寛郎元少尉の両親、兄弟、かつて所属した陸軍中野学校の戦友、中学校時代の同窓生に厚生省、警視庁とともに官民一体となった救出作戦だった。空から海から、また山地に入っただけの呼びかけ、ピラマキ。取材に同行したのは、すでにマニラに支局があった朝日に、シンガポールから飛んできた共同、そし

て毎日、読売の記者四人。

大捜索とはいえ、昭和二十七年から繰り返し行われながら空振りが続いていることだし、国際電話のラインは少なく、料金は高い時代だったから、各社とも救出しない限りいちいち送稿せずともよしと言われていた。

むろん、軽飛行機をチャーターして島に渡れば、ニッパパーハウスで蚊取り線香とともに寝起きし、実兄の敏郎さんから「寛郎は子どもころから気が向かないと押入れに隠れこんでいたものなあ」といった話を聞いて過ごした。捜索隊の制服を着て、毒蛇にへっぴり腰の密林行にも加わった。訪れたフィリピン政府高官を歓迎しての子豚の丸焼きはご馳走だった。

比政府の広報官とともに、太平洋戦争の激戦地コレヒドール島を視

察するといった余録もあった。

一年後の三月十日、小野田元少尉が救出される。一転して厳しい取材となった。我々の仕事はいつもこんなもので、楽しいことの後にはちゃんと帳尻合わせがくる。二月二十六日、鈴木紀夫青年が元少尉と接触したとの一報に、社で当直番だった身に、当然のように特派命令。夜明けとともにマニラへ向かった。

協定のフライイング？

しかし、ルバング島に渡ることは許されず、戒厳令下の日本大使館とホテルを往復の毎日。柏井秋久団長を軸にした定時のブリーフィングは隔靴搔痒。ときにはけんか腰になりながらも打つ手なし。当局と各社で取り交わされた協定は、救出・保護が確認されたら直ちに各社に伝達し、それから二時間後に比空軍基地から全員を島に運ぶというものだった。

三十年後のいま白状すると、各社の取材記者は、記憶に間違いが

なければ朝日が八人、毎日が七人で読売は三人。修羅場でのこの差は大きく、自由取材となれば勝ち日は薄かった。そこで柏井団長にこっそり耳打ちした。

「勝手に各社がチャーター機で飛び回れば空中戦になり、事故が起きかねませんよ。責任とれますか」。温厚な柏井さん、「どうしたらいいだろう」と、すぐに乗ってきたから、「比空軍のチャーター機で束にして運ぶのがベスト」と助言した。

失敗もあった。小野田さん救出までの取材の日は、鈴木青年との接触だが、その所在は明らかにされない。当たりをつけたのは、島のレーダーサイトの司令官の私宅だ。K写真部員が張り込んだが、物見高い市民に囲まれ不発。

次は民間人五人にインスタントカメラを持たせ、島民が生活の足にしているフェリーでルバング島に送り込み「それらしき姿を見かけたらなんでもいいからシャッターを切って」と託した。苦肉の策

ではあったが、フライングすれすれの成果は、一人も一台のカメラも戻ってこず、大笑いの種に終わった。

鉄条網越え大型ヘリに突進

さて、厳粛の十日。夕刻近く、支局に関連会社の取材記者から「マニラ空港に着いたが、どこへ行けばいいかわからない」との電話が入った。日曜日のランチをたらふく食べて気分は鷹揚になっていたもので、S君に「迎えに行つてやれよ。ただし途中で何があるかわからないからカメラも一緒に」と出てもらった。

それから間もなくS君から肝を潰す電話。「途中で占部大使に出くわし、日曜日なのに公用車で走っているの追いかけたら空軍基地に入った。救出を否定せず、これから島へ渡るが、同行できそうだ」というではないか。この際、協定も遠慮も雲散霧消。

結局、S君と朝日の特派員が先行すると思いがけない流れに

なった。そして、連絡から二時間後に、間違ひなく記者団を乗せた比空軍のC-119輸送機が基地から飛び立った。朝日と読売が先行したらしいとの噂は伝わっていたから、気まずい空気が漂った。島に着くと、事態はどんでん返し。先行したはずの二人は空港のバリケード内で足止め、協定は完全に守られていた。

ところが、である。これからトラックで現場のレーダーサイトまで運ぶと言われて待機していると、滑走路に駐機していた三機の大型ヘリコプターの回転翼が回り始めた。一機にフリーピンの記者団の姿、もう一機には救援物資らしいものを積み込んでいるが、手前はからっぽ。

警視庁一方面まわり時代からの友人、サンケイのY記者と以心伝心、鉄条網を飛び越えて走り、機体にはすがって操縦士に「乗ってもいいか」と言うと、いともあっさり「OK」。そのときには各社も機体に群がっていた。操縦士に「ど

うする」と言うと「一緒に墜落するしかない。それが嫌なら蹴落とすんだね」とウィンク。

それで、どうしたかは、記憶が消えているが、結果は六人が十五分でレーダーサイトに一番乗り。残る各社が山道を登って到着したとき、取材はあらかた終了。共同会見での状況説明が済んでもまもなく、月明に照らされて、ほろほろの衣服をまとった元兵士が、音もなく滑るように目前に現れた。

この日、元兵士は五十二歳の誕生日を迎えた。



にしじま・ゆうぞう会員 一九三五年生まれ
 五九年読売新聞入社 青森支局
 社会部 西部本社 社会部 日曜版編集
 部 社会部次長 芸能部長 編集委員
 九五年退社

書いた話

書かなかった話

ワーキング
プレス

だれのための「自由作戦」か

▼畑山 篤
(日本テレビニューヨーク支局長)

「やっぱりダメだったか……」。三月十九日夜、国連本部での中継を終えて支局に戻る車の座席に身を沈めたとたん、ため息が出た。バグダッドへの最初の空爆が始まったのはその一時間後だった。

だれもが「いずれアメリカはやる」と思っていた。しかしそこに至る過程は、最悪の展開だった。

アメリカのわがままは、十二月に始まった。イラクの申告書が国連本部に到着したその夜、アメリカ国連代表部の人間が査察委員会を「急襲」して申告書を「持ち去った」のだ。一刻も早く分析を始めるためだった。

その後は、査察委員会のブリクス委員長を再三ワシントンに呼びつけ、またライス大統領補佐官がニューヨークに乗りこんで圧力をかけた。しかし査察報告はアメリカに有利に働かなかった。

さらに安保理でのパウエル報告も各国を説得できなかった。国連でのアメリカの外交工作は失敗した。

最後の山は三月上旬。国内で追い詰められたブレア政権が、中間派六カ国の支持取り付けに奔走した。三月十日前後、イギリスを含む複数の外交筋から「イギリスは今月末までの期限延長を考えている」ということが分かった。舞台裏で、イギリス代表部の幹部は、「四月第一週でもいい」とまで言い切った。しかしアメリカ代表部の幹部は翌十二日、取材に対して「もう決議は求めない」と漏らした。

パウエル国務長官が「安保理決議なしの攻撃の可能性」について触れたのは、翌十三日のことだった。

「三月後半の攻撃開始」というアメリカの腹は、とっくの昔に決まっていたようだ。国連の内部資料にも「(戦車を通れるように)クウェート国境のフェンスを十五日までに破壊する計画だ」と書かれてあった。

ブリクス委員長は「あと数カ月で査察はできた。一月になると、辛抱できない国が出てきた」と振り返る。アメリカはなぜ待てなかったのか。これはだれでも抱く疑問、だれでも答えられる疑問だ。

アメリカは、協議の場として、そして手続きとしての国連を尊重することはなかった。

そして攻撃が始まった今、「第一の目的はサダム・フセイン政権の打倒。大量破壊兵器の廃棄はその次だ」と公言し、はばからない。これを止められる者もない。

十二年前、カイロ特派員だった私は当時の湾岸危機・戦争をイラクとその周辺で取材していた。多国籍軍による武力行使に至る

までのペーカー米国務長官によるシャトル外交に触れ、最後にバグダッド入りしたデクエアル事務総長が、「神のみぞ知る」と天を仰ぐのを目撃した。そのせいか、クウェートを占領したイラクが、国際社会からうけた罰を私は「仕方ない」と冷静に受け止めた。解放されたクウェートに入り、歓喜する市民を見て、「良かった」とも思った。

ところがこの戦争はどうだ。バスラの市民が喜ぶのを見ても、うれしくない。イラク兵が降伏を装って攻撃してきたと聞かされても腹が立たない。

(サダム・フセイン大統領からイラクを解放する)「イラクの自由作戦」と名づけられた戦争。本当は、(国連という国際社会の枠組みから自らを解放する)「アメリカの自由作戦」じゃないのか……。

ニューヨークはようやく春めいてきたというのに、私の心は暗い冬のままだ。(3月24日記)

はたやま・あつし 一九八四年入社 社会部 カイロ特派員 「きょうの出来事」を経て 九八年から現職

「松井」応援費を予算化

▼築田 和夫

(北國新聞社会部次長)

石川県南部の小さな町が今、「ゴジラを生んだ町」として脚光を浴びている。「ゴジラ」とは言わずと知れた米大リーグ、ヤンキースの松井秀喜選手。おらが町のヒーローに、普段は静かな根上町が、沸きに沸いている。

一九九三年、星稜高から巨人に入団した当初こそ、やれ横断幕だ、やれ応援バスだと町挙げての応援が繰り広げられた。しかし、巨人の不動の四番打者として大成してしまった安心感からか、地元では次第に茶の間から松井選手の話題

根上町 発

石川

が聞かれなくなったのも確かだ。

それでも全国の熱心な松井ファンは曜日を問わず、両親が自宅横に造った「松井秀喜 野球の館」を訪れた。松井選手と同郷の森喜朗代議士が首相時代、「総理になっても、根上町の有名人と言え、僕ではなく松井選手」とぼやいていたほどである。

それが昨年十一月、松井選手がメジャーリーグ行きを明らかにしてから、応援ムードが一気に再熱。平田文雄町長は「町民がいま一度、松井選手は『根上の宝』ということとを再認識した」と町民心理を分析する。

オープン戦デビューとなった二月二十八日。町が企画した応援中継には、午前三時過ぎの試合開始にもかかわらず、六十人以上の町民が町の会館に集まった。もちろ



観光コースにも組み込まれ、連日にぎわう「松井秀喜 野球の館」

ん、関心事は松井選手一人で、打席の合間には持ち込んだ弁当を食べ、居眠り組も。中継は松井選手が途中にベンチへ退くと終了し、「松井が出なければ、見る価値もない」といった具合である。

オープン戦の活躍ぶりに町民も黙っておらず、町ではあやかり商法も花盛りだ。三月に松井応援セールの実施した根上町商連スタンプ会の山田功夫会長は「冠に松井の名を付ければ、売り上げは二倍以上だ」とホクホク顔。ゴジラマツイラーメンを売り出した店には週末、県外からの団体客がどっと押し寄せ、不況風にあえぐ商店主らにとって松井ブランドほど魅力

的なものはない。

弊社は松井選手のヤンキース入りに伴いニューヨーク支局を開設。既に担当記者が密着取材し連日、紙面で「松井番 ゴジラ通信」として掲載している。世界各地からもメールが届く応援メッセージ「GO GO 松井」の欄も好評だ。

根上町は新年度予算に松井応援費を計上し、未明の大リーグ中継放映の場を提供し続けていく。J A根上も開幕戦を含む計六試合の観戦ツアーを実施。松井狂騒曲はこれからが本番である。

(つきた・かずお)

根上町メモ

人口 1万6379人
世帯 4798世帯
面積 13.57平方キロ

県都金沢市の南に位置し、霊峰白山から流れる手取川扇状地の端。1995年、民家の駐車場に停めてあった乗用車にいん石が落下、衝突したことで当時、注目を集めた。甲子園の大会歌「栄冠は君に輝く」の作詞者、故加賀大介氏の出身地でもある。2005年には同じ能美郡内の寺井、辰口町との合併で発言した新自治体名「松井市」「ゴジラ市」が話題として全国を駆け巡った。

上海通信

「南方週末」の批判精神

林 利 隆

(早稲田大学教授)

大学の在外研究制度の適用を受け、中国・上海に半年間滞在した。

中国の「ジャーナリズム倫理」と「ジャーナリズム教育」について調べる、というのが表向き口実、要は、中国語を一切解さなのまま、いま世界でもっとも刺激的な街を「メディア都市」と見立てて、体感し、観察することに当方の魂胆はあった。

会員のなかには、中国通の先輩、友人や一線記者が多数いる。わずるか六カ月間の見聞は、中国を知る人にとっては見当外れな妄言と聞こえる恐れのあることを承知のうえで、興味をもった一つのメディアについて書く。

◇ 「南方週末」という新聞がある。広州の南方日報を中心としたメデ

ィア集団が発行している週刊新聞であり、この四月で一〇〇〇号を数える。地方都市を本拠とする新聞でありながら、北京、上海をはじめとして全土に読者をもっているようだ。毎週末曜日に街の新聞・雑誌売り場に出て、ときには二、三日も店に並んでいることがある。

朝刊紙、昼間紙、夕刊紙、おびただしいほどに並ぶなかでこれに目をとめたのは、その紙面内容とつくりが特異なものと感じられたから。見受けたところ、政治、経済、文化を中心とする記事をもってセクション編集を試みており、その内容を子細に了解しえないままに、相当水準の高い「高級紙」という印象を持っていた。ところが、今年になって、上

海の『新聞記者—The Journalist Monthly』(二〇〇三年二月号)というメディア専門誌から思いもかけない情報を知る。上海のジャーナリストの意識調査に関するリポートによると、彼らの間で、これが内外のメディアを押しつけ、「理想とするメディア」としてトップの評価を集めているらしい。そこで、自らが籍をおかしてらっている復旦大学新聞学院の学生相当数に愛読紙と「南方週末」についての感想を、知り合いとなった学生を通じて聞いたところ、この新聞と、これに類した地元・上海の「外滩画報」の二紙が群をぬいて支持されていることが判明した。

◇ さて、これからが実は本題。今年二月二十七日付「南方週末」は「中国媒体・責任与方向」という見出しのもと、一面と二面をすべて使い、八人の研究者による座談会形式のメディア批判を掲載した。つたない理解によれば、今の中国メディアの報道姿勢、経営体制の問題性を指摘して、ジャーナ

リズムが人々の求めている情報を伝えていない、社会に対する責任をはたしていない、というきびしい論議が基調だったように思う。

これを見て、私は、今度は、新聞学院の知り合いの教授に意見を求めた。すでに先方はこの記事を承知しており、話を通じて、当該のそれが、メディアの内部やメディア研究者の間で反響をよんだこと、かつてない踏み込んだ批判であることを教えられた。また、こうした議論がなぜこういうかたちで、この時期にでたのかも解説してくれたが、その興味深い話は割愛せざるをえない。

一言したいのは、「南方週末」が、北京の要人たちの目にふれることを知りつつ、あえてそんな記事を出したところに、この新聞のある種反骨的な批判精神の感じられる、独自の性格を垣間見たような気がするということである。

(個人D会員 日本新聞協会出身)



オーロラを待つ日々

[NHK越冬取材班 中央が藤田記者]

時、雲がほのかに緑色に光りはじめた。しばらく待つと急に巨大な光のカーテンとなって天空に広がった。緑色や赤色に輝きながら大きく揺れる光のカーテンに、ただ圧倒され、寒さを忘れて立ち尽くした。音はまったく聞けないのだが、ゴーという音が聞こえてくるように思える。天上の光の滝に向かって思わず手を伸ばしそうになった。その感動を、日本に送り届ける

昭和基地 便り ②

白夜が終わる頃、昭和基地ではオーロラが観測されるようになる。私が初めてオーロラを見たのは二月二十六日午後十

べく、私たちはいまオーロラの撮影に取り組んでいる。オーロラが現れる時間は、午後十時過ぎから午前三時前まで。当番を決め、交代で放送センターに待機して待つ。オーロラは太陽から出た電子などの粒子が、地球の磁場に入り込み、酸素原子などと衝突して緑や赤に光る現象だ。太陽からの風をインターネットで確認しながら待つが、完全には当てにならない。待つしかないのだ。オーロラが現れると、無線で宿舎にいるメンバーを呼び出し、放送センターの裏山を大急ぎで登って二台のカメラで撮影を始める。けれども、オーロラの女神は気まぐれだ。撮影を始めるやうになると、急に姿を消してしまふこともある。実際にカメラを回すのは三日に一回程度だ。この頃は、最低気温が氷点下十度を下回り、風速が二〇メートルを超える夜も珍しくない。冷気と静寂に包まれた闇の中で、オーロラを待つ夜。しかし、出会うたびに違う表情を見せてくれるオーロラに、待っていてよかったと思えるのである。

NHK社会部 藤田 浩之

試写会

んだんウマくなつていく演出だろうと思つていた僕は、最後までヘタを通した渡邊監督に虚を突かれて脱帽。

映画は終わる。「むろん、生きるべきですよ。現実の厳しさに負けちゃダメ」と、そつと語りかけてくるようです。日本経済新聞出身

和田 正光

「ぷりてい・ウーマン」に負けちゃおれんぞ。僕たち「ないす・ガイ」もガンバラなくつちや」と元気がわいた。静岡で元気な赤ちゃんたちが素人劇団を立ち上げた実話が源だと言うし、出てくる役者の顔ぶれは古いし。大して期待はしていなかったが、見ればこれは、近ごろ見事に仕上がった人生の応援歌なのであります。アメリカに同名の映画があったが中身は似ても似つかない。ジュリア・ロバーツの若さと美貌より、こちらのベテラン陣のコクとピンボー（失礼）の方が魅力的に映る。素人役者のヘタさを演じるウマさはさすが。それもどうせだ

ぷりてい・ウーマン

「ロンドンでハムレットやりたいね」「生きるべきか死すべきかってアレ？」という会話で映画は終わる。「むろん、生きるべきですよ。現実の厳しさに負けちゃダメ」と、そつと語りかけてくるようです。日本経済新聞出身



余命いくばくもない身を芝居にかけていた主演は死に、代役を立てて臨んだ初公演は失敗の連続で、観客の失笑をあびた。だが団員たちのひたむきさが次第に観客たちの心をとらえ、失笑は沈黙へ、最後は嵐のような大拍手へと変わる。大成功!! 劇団は新しい出発を宣言した。恥ずかしながら小生も、最後は涙、涙の感動にひたつておりました。ただしこれは、めでたしめでたしの喜劇じゃない。淡路恵子ばあちゃんの息子は失業、孫娘の将来もばあちゃんの芝居もすべてはこれから。

第61回総会

2003年度予算

自 2003年4月1日
至 2004年3月31日

| 科 目 | 2003年度予算 | |
|---------------|-------------|------------|
| | 年 額 | 月 額 |
| [支出の部] | | |
| 1. 事業費 | 242,994,000 | 20,249,500 |
| 借室維持費 | 187,135,000 | 15,594,583 |
| 借室料 | 111,230,000 | 9,269,167 |
| 共益費 | 16,640,000 | 1,386,667 |
| 空調・光熱・水 | 9,265,000 | 772,083 |
| ホール専用利用費 | 50,000,000 | 4,166,667 |
| 会議費 | 5,025,000 | 418,750 |
| 事業運営費 | 24,672,000 | 2,056,000 |
| 会報発行費 | 15,800,000 | 1,316,667 |
| 運営雑費 | 1,542,000 | 128,500 |
| 通信費 | 4,000,000 | 333,333 |
| 印刷費 | 3,560,000 | 296,667 |
| 交通費 | 1,260,000 | 105,000 |
| 2. 管理費 | 183,310,000 | 15,275,833 |
| (1) 人件費 | 151,138,000 | 12,594,833 |
| 給与金 | 89,549,000 | 7,462,417 |
| 賞与・諸手当 | 59,589,000 | 4,965,750 |
| 厚生費 | 2,000,000 | 166,667 |
| (2) その他の管理費 | 32,172,000 | 2,681,000 |
| クラブ管理費 | 23,124,000 | 1,927,000 |
| 機器備品費 | 1,500,000 | 125,000 |
| 消耗品費 | 3,200,000 | 266,667 |
| 事務委託費 | 3,436,000 | 286,333 |
| 事務雑費 | 912,000 | 76,000 |
| 3. 諸引当預金への支出 | 20,000,000 | 1,666,667 |
| (1) 退職準備積立預金 | 10,000,000 | 833,333 |
| (2) 資産準備積立預金 | 10,000,000 | 833,333 |
| 4. 予備費 | 13,235,000 | 1,102,917 |
| 小 計 | 459,539,000 | 38,294,917 |
| 5. 特定積立預金支出 | 119,000 | 9,917 |
| (1) 増加賃料積立預金 | 59,000 | 4,917 |
| (2) クラブ賞積立預金 | 36,000 | 3,000 |
| (3) 特別積立預金 | 24,000 | 2,000 |
| 6. 諸積立金支出 | 0 | 0 |
| (1) 退職準備積立預金 | 0 | 0 |
| (2) 資産準備積立預金 | 0 | 0 |
| (3) 増加賃料積立預金 | 0 | 0 |
| (4) クラブ賞積立預金 | 0 | 0 |
| (5) 特別積立預金 | 0 | 0 |
| 小 計 | 119,000 | 9,917 |
| 計 | 459,658,000 | 38,304,833 |

日本記者クラブ第61回総会（02年度臨時総会）は、3月24日午後3時からクラブ宴会場で行われた。出席法人会員28社、委任法人会員105社、計133社の出席をもって成立（定数75社）、北村理事長を議長に議事を進めた。03年度事業計画・同収支予算案を理事会案通り可決した後、昨年5月の通常総会以降の役員の一部交代を承認。テレビマンユニオンの法人会員入会を了承した。

| 科 目 | 2003年度予算 | |
|---------------|-------------|------------|
| | 年 額 | 月 額 |
| [収入の部] | | |
| 1. 会費収入 | 387,319,000 | 32,276,583 |
| (1) プレス会員会費 | 326,364,000 | 27,197,000 |
| 法人会員会費 | 217,464,000 | 18,122,000 |
| 個人A会員会費 | 29,118,000 | 2,426,500 |
| 個人B会員会費 | 2,566,000 | 213,833 |
| 個人C会員会費 | 13,708,000 | 1,142,333 |
| 個人D会員会費 | 63,508,000 | 5,292,333 |
| (2) 賛助会員会費 | 60,955,000 | 5,079,583 |
| 法人賛助会員会費 | 48,792,000 | 4,066,000 |
| 個人賛助会員会費 | 6,019,000 | 501,583 |
| 特別賛助会員会費 | 6,144,000 | 512,000 |
| 2. 事業収入 | 71,430,000 | 5,952,500 |
| (1) 貸室収入 | 42,770,000 | 3,564,167 |
| (2) 飲食売上割戻金 | 22,820,000 | 1,901,667 |
| (3) 施設機器賃貸収入 | 5,840,000 | 486,667 |
| 3. 雑収入 | 790,000 | 65,833 |
| (1) 受取利息 | 287,000 | 23,917 |
| (2) その他の雑収入 | 503,000 | 41,917 |
| 小 計 | 459,539,000 | 38,294,917 |
| 4. 特定預金受取利息 | 119,000 | 9,917 |
| (1) 増加賃料積立預金 | 59,000 | 4,917 |
| (2) クラブ賞積立預金 | 36,000 | 3,000 |
| (3) 特別積立預金 | 24,000 | 2,000 |
| 5. 入会金 | 0 | 0 |
| 6. 特定預金取崩収入 | 0 | 0 |
| (1) 退職準備積立預金 | 0 | 0 |
| (2) 資産準備積立預金 | 0 | 0 |
| (3) 増加賃料積立預金 | 0 | 0 |
| (4) クラブ賞積立預金 | 0 | 0 |
| (5) 特別積立預金 | 0 | 0 |
| 小 計 | 119,000 | 9,917 |
| 計 | 459,658,000 | 38,304,833 |

会員異動 (2002年4月~2003年3月)

| 月 | 会員種別 | プレス会員 | | | | | | | | 法人・個人賛助会員 | | 特別賛助会員 | 全 会 員 | | | | |
|-------|------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|-----------|-----|--------|-------|-----|------|-----|-----|
| | | 法人 | 基本 | 個人A | 個人B | 個人C | 個人D | 名誉功労 | 対前月増 | 対前月減 | 合計 | | 対前月増減 | | | | |
| | | (社) | (人) | (人) | (人) | (人) | (人) | (人) | (社) | (人) | (社) | (人) | (社) | (人) | (社) | (人) | |
| 2002. | 4 | 149 | 823 | 523 | 63 | 233 | 937 | 13 | ±0 | -6 | 79 | 210 | 65 | 228 | 2867 | 1 | -4 |
| | 5 | 149 | 820 | 527 | 63 | 233 | 939 | 13 | ±0 | 3 | 78 | 209 | 66 | 227 | 2870 | -1 | 3 |
| | 6 | 149 | 821 | 525 | 64 | 234 | 940 | 13 | ±0 | 2 | 78 | 209 | 66 | 227 | 2872 | ±0 | 2 |
| | 7 | 149 | 820 | 531 | 63 | 229 | 938 | 13 | ±0 | -3 | 78 | 209 | 66 | 227 | 2869 | ±0 | -3 |
| | 8 | 149 | 820 | 533 | 64 | 224 | 943 | 13 | ±0 | 3 | 78 | 210 | 66 | 227 | 2873 | ±0 | 4 |
| | 9 | 149 | 820 | 534 | 65 | 226 | 942 | 13 | ±0 | 3 | 79 | 212 | 66 | 228 | 2878 | 1 | 5 |
| | 10 | 149 | 817 | 535 | 65 | 224 | 941 | 13 | ±0 | -5 | 79 | 209 | 65 | 228 | 2869 | ±0 | -9 |
| | 11 | 149 | 822 | 528 | 67 | 225 | 943 | 13 | ±0 | 3 | 79 | 209 | 63 | 228 | 2870 | ±0 | 1 |
| | 12 | 149 | 821 | 525 | 68 | 226 | 941 | 12 | ±0 | -5 | 79 | 209 | 63 | 228 | 2865 | ±0 | -5 |
| 2003. | 1 | 149 | 821 | 520 | 69 | 224 | 934 | 12 | ±0 | -13 | 79 | 209 | 64 | 228 | 2853 | ±0 | -12 |
| | 2 | 149 | 821 | 518 | 69 | 224 | 931 | 12 | ±0 | -5 | 78 | 208 | 64 | 227 | 2847 | -1 | -6 |
| | 3 | 149 | 820 | 513 | 68 | 226 | 932 | 12 | ±0 | -4 | 78 | 208 | 64 | 227 | 2843 | ±0 | -4 |

■会議報告

第240回会報委員会 (3・11 小会議室)

四月号の編集方針を協議した。

出席 住田委員長、小川、尾崎、仙石、中山、堀内、元田の各委員。

第319回企画委員会 (3・18 宴会場)

クラブゲストの選考について協議した。

出席 清本、橋本、永野、矢島、宮田、春名、菅沼、金重、神志名、迫田、川戸、村澤、川内、中村、福沢、ワグナーの各委員。

第83回総務委員会 (3・14 小会議室)

杉田理事長の辞意表明を受け、北村副理事長を新理事長として理事会に推挙することを決定した。○三年度の事業計画案と収支予算案を決定し、一六期役員選出委員会を総務委員で構成することとあわせて理事会に上程することにした。

出席 堀川委員長、門田、宇治、大戸、村上の各委員。杉田理事長、北村、小林両副理事長、那部専務理事。

第375回理事会 (3・14 大会議室)

一、杉田理事長の辞任にともない、北村正任副理事長を理事長に選出した。また、日本経済新聞社の理事交代(新・島田昌幸常務取締役)を承認した。

一、○三年度事業計画・同収支予算案を総務委員会案通り承認し、第六一回総会に上程することにした。

一、○三年度日本記者クラブ賞選考委員会を、クラブ賞内規にしたがい、総務委員会委員で構成することを決定した。

一、第一六期(○三、○四年度)役員選出委員会を総務委員会で構成することを決定した。

一、テレビマンユニオンから申請のあった法人会員としての入会を承認し、第六一回総会に上程することにした。

一、第六一回臨時総会を三月二十四日に、第六二回通常総会を五月二十三日に開催することを決定した。

出席 杉田前理事長、北村理事長、小林副理事長、那部専務理事。堀川、門田、天野、村田、宇治、樫、大野、一力、平井、東金城、山下、大戸、宮地、田村、村上、佐藤の各理事。小川、高野両監事。

第148回施設運営委員会 (3・13 小会議室)

一月、二月のアラスカ売り上げと貸室利用状況を事務局が報告した後、閲覧用の定期購読誌に「フォーブス日本版」を加えることを決めた。

出席 田村委員長、広上、今田、田村、榊原、中原の各委員。

第307回会員資格委員会 (3・18 大会議室)

四月一日付の会員入退会を審議し、理事会に答申した。

出席 門田委員長、桃井、村神、船田、深澤、工藤の各委員。

友田 錫(ともだ せき) 一九六二



年産経新聞入社。ベトナム特派員、パリ支

局長、外信部長、編集局次長、論説委員などを務め、八八年退社。現在、亜細亜大学教授。著書に『裏切られたベトナム革命』など。

堀内 敏宏(ほりうち としひろ) 一九六〇



年NHK入局。ニューヨーク特派員、ジュネ

ーブ支局長、外信部長、解説委員などを務め、九四年退局。現在、小平市教育委員長。

写真回廊

今号から友田錫、堀内敏宏、松本侑壬子、森脇逸男の四会員に「短文」を担当していただきます。「写真回廊」は新聞・通信各社の写真部記者の労作に、自由な発想で短文を添えていただいています。

松本侑壬子(まつもと ゆみこ) 一九六八



年共同通信入社。海外部記者、文化部次長、

調査部部长などを務め、九九年退社。現在、十文字学園女子大学教授。著書に『シネマ女性学』『女性監督映画の全貌』(共著)など。

森脇 逸男(もりわき いつお) 一九五四



年読売新聞入社。社会部記者を経て、論説委

員(一面コラム「編集手帳」を六年五カ月間担当)、社会部長、編集局次長などを務め、九一年退社。著書に『直言閑論』『縦言横論』など。

プロフィール

◇個人D会員

三月一日付入会の個人D会員、法人賛助会員の方々です。

○囲碁の会

三月十五日(土)の例会には二十一人が参加、総対局数は四十一局でした。優秀賞・吉沢正也(三回連続)、石川基(二回連続)、庭野静雄、中俣富三郎、相川誠一、吉川真澄。

△二〇〇二年度年間の主な成績

- 勝率 ①柴田鉄治(・七七八) ②清水秀昭(・六六七) ③山根耕志(・六四七) ④石川基(・六三四) ⑤塚本一(・六一五) ⑥相川誠一(・五九四) ⑦佐伯晋(・五五六) ⑧庭野静雄、浅野道彦、三ツ野充蔵(・五四五)

- 勝ち数 ①吉川真澄(三二) ②石川基(二六) ③宮沢昭二郎(二三) ④安田志郎、都留重人(二〇)
- 対局数 ①吉川真澄(五九) ②宮沢昭二郎(四五) ③石川基(四一) ④安田志郎、都留重人(三七)
- 皆勤 宮沢昭二郎、石川基、都留重人
- *年間対局数十五局以上

四月の例会は十九日(土)午後一時から宴会場で行います。しばらくごぶさたしている皆さん、ぜひご参加ください。



写真部

写真 善家 浩二

(一九九九年日本経済新聞入社、東京本社写真部を経て、二〇〇三年から名古屋支社編集部)

名古屋市にある会社のグループ入社式。辞令を交付された二頭の新人社員犬は、東京の犬のおやつ専門店に配属される(3・14)

犬もあるけば…

——近未来の一日、ある犬の家
庭での祖父犬と孫犬の会話——

「あれ、椅子に座っているのはおじいちゃんだ」

「どれ、古い写真を持ちだしたな。わしが入社したときの写真だよ」

「犬のケーキやクッキーを販売する会社なのに、人間がいっぱいいたんだね」

「そのころは人間の世の中だったんだ。われわれ犬族は、ベットか番犬、せいぜいが盲導犬、麻薬犬くらいにしかなれなかった」

「どうして、犬族の世になったの」

「当時、犬語翻訳機が発明されて、犬と人間の間の意思疎通が格段に進んだ。最初は店先で食べてみせるだけの仕事だったわしは、製造にかかわり、バイオ技術で犬の知能を飛躍的に向上させるペットフードを作りだし、その功績で社長になった。犬が何にでも使えることが分かると、その辺の会社はほとんどサラリドッグを採用し始め、世界中の軍隊は犬の兵隊が普通になった。何しろ犬は忠実で勇敢だからな。しかし、過労死したり戦死したりするのが犬ばかりとなると、犬も考える。犬の世界にしたほうが地球は平和になるということだ。人間サヨナラ、犬族コンニチワンの時代が来たわけだ……」

(森脇 逸男)

フロアマネジャーの山田です

多くの会員の方々にはすでにお馴染みだと思えます。外人記者クラブの支配人だった山田信義(六〇)が、フロアマネジャーとして事務局に加わりました。四十年にわたり、外国特派員などのお世話をしてきたベテランです。昨年四月、定年退職後、クラブの受付でアルバイトをしてもらいました。前任の佐藤正夫は土曜日の非常勤嘱託となります。ベテラン二人をよろしくお願いいたします。

☆レストラン夜の部のご案内☆

和食 三千円のミニ懐石がおすすめ

海老のゆば巻き焼き、加茂茄子の丸煮、矢羽根を蓮根でかたちどり、的を穴子でこしらえた揚げ物がメインです。前菜、刺身三点、桜そばに桜風味のアイスクリームもついています(予約〓3503-2723)。

洋食 オマールエビ・コースが人気

カナダ産の生のオマールエビをまるごと軽く煮込んで、二種類のソースでめしあがっていたり、コースが好評です。プリプリした食感やエビミソをご堪能ください。グラスワインがついて四千八百円です(六月末まで。要予約〓3503-2766)。

△理事交代▽

日本経済新聞社

(新) 島田 昌幸 常務取締役総務・労務・編集・営業推進本部担当

(旧) 杉田 亮毅

神戸新聞社

(新) 古川 潤 東京支社長

(旧) 長尾 俊昭

将棋の会 三月二十九日(土)

例会には八人が参加しました。飛車落ちの駒落ち対局が三局あり、下位者が二勝一敗と勝ち越しました。これは四月二十六日に行う大会の前兆でしょうか。関心のある方は午前十一時に集合して、確かめてみてください。

寄贈書

ロシア大使が写した日本の日常

アレクサンドル・パノフ駐日ロシア大使

至誠は息むことなし 評伝 田中龍夫

人間 糸川英夫博士とは 新井篤美会員

村野賢哉会員

放送で気になる言葉 日本新聞協会

NHK データブック 世界の放送2003 日本放送協会

「マイBook マイPR」は7ページに掲載しました。

クラブの電話

(ダイヤルイン)

- ・和食レストラン(9階) 3503-2723
- ・洋食レストラン(10階) 3503-2766
- ・貸室予約 3503-2724
- ・受付、宴会打ち合わせ 3503-2721
- ・クラブ行事への申し込み 3503-2722
- ・会員事務 3503-2725
- ・経理 3503-2728

△事務局人事▽

4月1日 石川洋 総務部長(主管)

会員現況 法人会員 一四九社 基本会員

八一七人 個人会員 一、七二九人 法人

個人賛助会員 八〇社 二一人 特別賛助

会員 六六人 名誉・功労会員 一二人

計 一三九社 一、八三五人

四月の行事予定(4日現在)

18日(金) 正午〜午後2時 矢嶋英敏・島

津製作所社長昼食会

(行事案内電話) 〇三二三五〇三三七六四

会報委員会

委員長 住田良能

委員 小川津根子 尾崎美千生 仙石伸也

連 絡 中山司朗 堀内敏宏 元田 成

電話 〇三二三五〇三二七五二

(FAX) 〇三二三五〇三二七七二